

とも

登場人物

★は劇中劇『虹の彼方に』の登場人物

1. 小林知輝
2. 森山智花(★明日香)
3. 友川^{そら}大空
4. ★葵
5. ★颯太
6. ★龍之介
7. ★美月
8. ★かりん
9. ★^{れいな}玲奈
10. ★小津さん
11. 看護師 (高峰真央)
12. ^{ひろき}大樹
13. ^{みか}美夏
14. 拓也
15. 颯太の母

■ プロローグ

舞台は七つ森総合病院。舞台の前半分が智花の病室であり、智花は個室に入っている。病室の下手に智花が使っているベッドがあり、その横には車椅子と机がある。机の上には犬のぬいぐるみが置かれている。またベッドの前にはゴミ箱が、ベッドの上手側には来客が座ることができる椅子がいくつか置かれている。

中庭を挟んで、智花がいる病棟の向かい側にも病棟があり、智花の病室の真向かいの病室に知輝が入っている。二つの病室は向かい合っているのであるが、舞台上ではどちらも客席を向いている。舞台の後ろ半分が知輝の病室となる。知輝の病室は、智花の病室よりも高い位置に設定されている。知輝が使っているベッドは病室の上手にある。

知輝が病室の窓から智花の病室を眺めている。智花も窓の外を眺めている。ただ智花が眺めているのは病室から見える空である。智花は両足をけがしている。そのため両脇に松葉杖をはさみ、それを支えとして窓辺に立っている。智花は青いフリースを着ている。

知輝 智花の話をしよう。

智花 知輝の話をする。

知輝 僕の病室の窓から、向こうの棟が見える。智花の部屋は僕の部屋の真正面。智花はずっと空を眺めていた。僕はそんな智花をずっと眺めていた。

智花 空を眺めている私を眺めている人がいるなんて気づかなかった。もちろんそれが知輝だということも。そもそも私は知輝を知らなかった。

知輝 智花は七つ森女学院中学校の2年生。先月からここ七つ森総合病院に入院している。これは後でわかったことだけど。

智花 知輝は七つ森中学校の2年生。昨日からここ七つ森総合病院に入院している。でも、これは後でわかったこと。

知輝 向こうの部屋の窓辺に智花の姿を見つけた時、電流が流れた。そして、あの日のことを思い出した。東関東中学校総合文化祭が行われたあの日のことを。

知輝が回想する、東関東中学校総合文化祭の成績発表の場面が、智花の部屋で演じられる。

智花の演劇部仲間が、智花の周りに集まってくる。

智花は松葉杖を離し、あの日の智花になる。

智花達が大喜びする。泣いているものもいる。抱き合うものもいる。

歓喜と涙が最高潮に達したところで、ストップモーションとなる。

知輝 演劇部門で最優秀賞を取ったのは『虹の彼方に』。その脚本を書いたのが、智花だった。

そして、その作品は最優秀脚本賞も受賞した。それにしても記憶というのは不思議だ。あ

のときの智花は制服を着ていたはずなのに、記憶の中の彼女は青いフリースを着ている。智花は青が似合う。青は彼女がいつも見つめている空の色だ。受賞の瞬間に見せた智花の喜びの表情、そして涙。僕はあのとき、智花を好きになり始めていたのかもしれない。

◇智花の部屋

智花の演劇部仲間が舞台から去る。

智花が、ベッドの上に倒れ込む。

智花は顔を上げ、ベッドの横の机の上に置いてある、犬のぬいぐるみに話しかける。

智花 ハリー、もう嫌。もう駄目。リハビリなんてもうたくさん。リハビリすれば普通に歩けるようになるなんて嘘。私は、もう普通に歩くことなんてできない。できないよ。

と言ったところで、ハリーの横に少年が顔を出す。

智花 (びっくりして) 君、誰？

大空 僕、友川大空(そら)。

智花 ねっ、大空くん。ここどこかわかってる。

大空 うん。病院だよ。

智花 病院のどこ？

大空 どこなの？

智花 私の病室でしょ。何で私の病室にあなたがいるの？

大空 かくれんぼしてる。

智花 かくれんぼ？私の部屋に隠れたってわけ？

大空 うん。

智花 出てって。

大空 (ちえ) 今出てったら見つかったちゃうよ。

智花 出て行きなさい。

大空がドアまで歩いて行き、振り返る。

大空 お姉ちゃん、一つ言っていていい？

智花 何？

大空 お姉ちゃん。ぬいぐるみは話さないよ。

智花 …知ってる。

大空 知ってたんだ。

智花 あたりまえでしょ。

大空 お姉ちゃん。
智花 そのお姉ちゃんっていう呼び方やめてくんない。私と君は赤の他人なんだから。
大空 じゃ、おばさん。
智花 あのね。
大空 姉御。
智花 …
大空 お姉様。
智花 わかった。お姉ちゃんでもいい。で、何？
大空 お姉ちゃん、名前は？
智花 森山智花。
大空 じゃ、智花姉ちゃんだね。
智花 どうぞ、ごかってに。(あー)君の名前、「そら」だったっけ。
大空 うん。
智花 「そら」ってどう書くの。
大空 大空って書いて、「そら」って読むんだ。
智花 (窓から外を眺めて)大空って書いて「そら」か。(向かいの部屋で智花のことを眺めている知輝に気がついて)。あれ…

この時までずっと智花の部屋を眺めていた知輝は、智花の視線を感じて窓辺から離れる。

大空 どうしたの。
智花 あの部屋の男の人、私のこと見てた。私と目があったら、隠れた。
大空 あの部屋って。
智花 この部屋の正面にある、あの部屋。
大空 昨日、入院した人の部屋だね。確か中学生だよ。
智花 知ってるの。
大空 僕たちいつもかくれんぼしてるでしょ。かくれんぼしてるというんな情報が入ってくるんだ。
智花 颯太みたい。
大空 そうた？
智花 (あつ)颯太って、私を書いた劇に出てくる男の子。ちょっと君に似てるかも。

そのとき智花の部屋に子ども達が現れる。

大樹 大空くんみつけ。
美夏、拓也 みつけ。
大空 みつかったか。

大樹 大空くん、声が外まで聞こえてきたよ。

美夏・拓也 聞こえてきたよ。

大樹 かくれんぼを続けようよ。

拓也 今度は美夏ちゃんが鬼だよ。

美夏 うん。

大樹 それじゃ、かくれんぼを始めるよ。

大空・美夏・拓也 おー。

子ども達が部屋を出て行く。

大空 お姉ちゃん。また今度ね。

◆知輝の部屋

知輝の部屋に大空が現れる。

※この後、大空は二つの部屋の境を無視して、知輝と智花の部屋を行き来する。

大空 お兄ちゃん。この部屋に隠れていい。

知輝 ？

大空 あのね、僕たち今かくれんぼしてるんだ。

知輝 君、誰？

大空 大空(そら)。大空って書いて「そら」って読むの。

知輝 大空って書いて「そら」か…いい名前だね。空っていいよね、ここじゃ建物に隠れて少ししか見えないけど。

大空 (ベッドの下を指して)ここに隠れていい？

知輝 いいけど…

大空 (隠れようとして)わーっ、本がいっぱい。これ全部お兄ちゃんのもの？

知輝 病院って退屈だから、たくさん持ってきた。

大空『ハリー・ポッターと賢者の石』『ハリー・ポッターと秘密の部屋』『ハリー・ポッターと謎のプリンス』。これ僕が読みたかったやつだ。

ちょっと違った感じの本を取って。

大空 『モテモテ大作戦 女の子にもてる秘密を教えます』。これもお兄ちゃんのもの？

知輝は、慌ててその本を取り上げる。

大空 （もう一冊別の本を手にして）『恋した時に読む本』。この本、たくさん赤のアンダーラインが引かれてるね。お兄ちゃん恋しちゃったの。

知輝 …

大空 それって、あそこにいるお姉ちゃんのこと。

知輝 （えっ！）

大空 お兄ちゃん、あのお姉ちゃんのこと好きなんですよ。だからここから見てたんだね。あのお姉ちゃん、お兄ちゃんがのぞいていることに気づいてるよ。

知輝 （えっ！）

大空 お兄ちゃん。のぞきって楽しい？

知輝 おいおい、変なこと言うなよ。のぞいていたわけじゃないんだ。

大空 それじゃ、何してたの。

知輝 思い出してた。

大空 …

知輝 彼女のこと知ってるんだ。

大空 そうなの。

知輝 （うなづく）名前・森山智花、七つ森女学院中学校の2年生、演劇部に所属。去年彼女が書いた『虹の彼方に』という劇は、東関東中学校総合文化祭の演劇部門で最優秀賞受賞。

大空 さいゆーしゅーしょー？

知輝 一番いい劇がもらえる賞だよ。それだけじゃなくて最優秀脚本賞ももらったんだ。

大空 さいゆーしゅーきやくほんしょー？

知輝 最優秀脚本賞は、一番いいお話を創りましたっていう賞なんだ。

大空 お姉ちゃんのことよく知ってるんだね。お兄ちゃんは、お姉ちゃんのこと追っかけて入院したの。

知輝 そんなわけないだろ。僕、『虹の彼方に』を観たんだ。僕も演劇部に入ってるから、興味あって。僕は彼女の隣の学校で演劇をやってるんだ。

大空 お姉ちゃんが書いた『虹の彼方に』ってどんな劇なの。

知輝 病院が舞台の劇なんだ。『虹の彼方に』は、病気と闘っている子どもたちのドラマなんだ。僕、劇に感動して、僕の学校の演劇部の先生に頼んで、脚本を手に入れたんだ。何度も何度も読んだ。もう暗記しちゃうくらい。

大空 （窓の外を見て）あっ、お姉ちゃんだ。こっち見てる。お兄ちゃん、来てごらんよ。

知輝 だめだよ。またのぞいてると思われる。

大空 好きなんですよ。

知輝 …

大空 お姉ちゃんのこと。

知輝 …

大空 どうしたの。

知輝 胸が、苦しい。彼女のこと考えると、胸がドキドキするんだ。

大空 僕と同じだね。

知輝 (えっ?)

大空 僕もときどき胸が苦しくなるんだ。だから入院してるの。

その時、知輝の部屋のドアが突然開いて、子ども達が入ってくる。

大樹 大空くん、みつけ。

美夏・拓也 みつけ。

大空 みっかったか。

大樹 大空くん、声が外まで聞こえてきたよ。

美夏・拓也 聞こえてきたよ。

大樹 かくれんぼを続けようよ。

美夏 今度は拓也くんが鬼だよ。

拓也 うん。

大樹 それじゃ、かくれんぼを始めるよ。

大空・美夏・拓也 おー。

子ども達が部屋を出て行く。

大空 後でお姉ちゃんに伝えとくね。あのお兄ちゃん、のぞき目的じゃなかったみたいって。

◇智花の部屋(翌日)

大空が智花の部屋に現れる。

大空 というわけ。のぞきじゃないって。

智花 私たちの劇、観たってほんとなのかな。

大空 (うん)観たって。『2時の彼方に』だよ。

智花 あだね『2時の彼方に』じゃ、3時とか4時のことになっちゃうでしょ。私たちの劇は『虹の彼方に』。虹ってわかる。君の名前の空にかかるでしょ。七色で。

大空 (うん)知ってる。でも、見たことないけど。

智花 虹、見たことないの。

大空 絵本とかテレビで見たことはあるよ。でもお空にかかっているのは見たことない。僕ずっと病院にいるから、あんまりお空を見ることないし。

智花 そっか。

大空 ねっ、お姉ちゃん。僕に似てる男の子その劇に出てくるの。

智花 (うん)

大空 聞かせてよ、そのお話。さいゆーしゅーきやくほんしょーもらったんでしょ。
智花 いいけど…、(あっ)そうだ。ねっ、そのお兄ちゃんに話してもらったらどうかな。
大空 お兄ちゃんに。
智花 だって劇を観て、その後脚本まで手に入れて、暗記するまで読んだって言ってるんでしょ。
大空 そう言ってた。
智花 ねっ、お兄ちゃんに話してもらって。そして、お兄ちゃんが言ったことがほんとかどうか確かめて。
大空 (うん)わかった。

◆知輝の部屋

大空が知輝の部屋に現れる。

大空 というわけで、はい、これ智花姉ちゃんからの手紙。何て書いてあるか僕にも教えてね。

知輝が手紙を見る。
手紙に書かれている質問は、智花自身が自分の病室から言う。

智花 「まず、あなたの名前を教えてください」
知輝 僕の名前を教えてください。名前は、小林知輝。
大空 二人とも「とも」だね。
知輝 「とも」？
大空 お姉ちゃんが智花で、お兄ちゃんが知輝。
知輝 そういえば僕のあだ名はずっと「とも」だった。
大空 僕も「とも」だよ。
知輝 君も？
大空 僕は友川大空。三人とも「とも」なんて、なんか変だね。
知輝 三人とも「とも」か…

知輝が手紙を見る。

智花 「あなたがどんな人か、簡単に教えてください」
知輝 僕がどんな人か、か…(大空を見て)僕は、七つ森中学校の2年生。演劇部に入っています。僕の夢は、童話作家になることです。先月から胸が急に痛むことがあって、一昨日から検査のために入院しています。
大空 なんか、学校で作文読んでいるみたいだね。

知輝が笑う。

知輝が手紙を見る。

智花 「大空くんが、私たちが上演した『虹の彼方に』の内容を知りたがっています。あなたから伝えてもらえませんか。あなたが本当に私たちの劇に感動してくれたのなら、その感動まで伝えてくれるとうれしいです」

知輝 劇の感動まで大空くんに伝えてくれって。(うーん)難しいな。

大空が拍手をする。

知輝 それじゃ登場人物から説明しようか。そうだな。誰から紹介すればいいかな。

大空 智花姉ちゃんはどんな役をやったの。

知輝 智花さんが演じたのは明日香って女の子。彼女はミュージカルが大好きなんだ。ミュージカルってわかる。

大空 うん。僕、子どもミュージカル、観たことある。

知輝 明日香は病院にいる子どもたちのリーダーで、みんなですてきなクリスマス会を開こうって考えているんだ。そして、彼女はクリスマス会の最後を飾る劇を創るんだ。

この後、紹介された人物が智花の部屋に登場する。

知輝 それと、葵という少女(葵が登場する)。葵はあることが原因で入院しているんだ。

大空 あることって。

知輝 今は言わない。

大空 えー知りたいな。

知輝 でね、彼女は心を閉ざしているんだ。

大空 心を閉ざす？

知輝 何て説明したらいいかな。…葵は、最初は誰とも口を聞こうとしないんだ。そして自分なんて生きていても仕方ないって思っているんだ。それとね、颯太っていう少年(颯太が登場する)。

大空 (あっ)僕に似てる男の子だね。お姉ちゃんがそう言ってた。

知輝 そうなんだ。で、颯太は名探偵コナンが大好きで、自分も探偵になりたいって思っているんだ。それと美月(美月が登場する)。彼女は聴覚障がい者。つまり、耳が聞こえないんだ。それで美月は、手話を使うんだけど、みんなは手話がわからないからなかなかお互いを理解することができないんだ。

大空 手話って？

知輝 手を使って話す言葉のこと。こんなふうにして。ありがとう(そう言いながら「ありがと

う」という手話をする)。

大空 (あつ)それ、見たことある。

知輝 後は…かりん(かりんが松葉杖を使って足を引きずるようにほとんど手だけの力で歩いてくる)。ダンスが得意な女の子。彼女は両足をけがして入院している。そんな彼女は、夢の中でダンスを踊るんだ。

かりんが踊り出す。

踊り終わった後、再び松葉杖の助けを借りて立つ。

知輝 でも夢から覚めた彼女は、松葉杖なしでは立つこともできない。忘れちゃいけないのが、龍之介(龍之介が登場する)。彼らの中で一番年下の男の子。絵を描くのが大好きなんだ。彼はサンタクロースを信じてる。(あつ)大空くんも、信じてるのかな。

大空 信じてるわけじゃないじゃない。サンタさんは僕のパパだよ。

知輝 そっか。そうだよ。紹介を続けるよ。最後に紹介するのはおずさん。

大空 (笑う)

知輝 何がおかしいの？

大空 お兄ちゃん、訛ってるよ。今、おずさんって言ったよ。おじさんでしょ。

知輝 大空くん、違うよ。おじさんじゃなくて、小津さん。小津って、名前なんだ。看護師さんだよ(小津さんが登場する)。小津っていう名前の看護師さんを、みんな小津さんって呼んでいるんだ。登場人物はこんなところかな。

大空 たくさんいすぎて覚えられないや。

知輝 それじゃ僕が一人一人絵で描いてあげる。

ドアをノックする音。

劇の登場人物が舞台から去る。

看護師が現れる。

看護師 あー、ここだったか。ずいぶん探したぞ。大空くん、もうお薬飲んで寝る時間でしょ。

大空 僕、部屋に戻りたくない。もう少しここにいてお話が聞きたい。

看護師 だーめ。

知輝 大空くん。明日までに絵、描いとくから。それと智花さんの手紙の返事も。大空くん届けてくれる。

大空 いいけど。お兄ちゃん自分で届けばいいじゃない。

知輝 そ…そうだね。でも…

大空 わかった、届けてあげる。

知輝 ありがと。大空くん。

看護師 大空くん、いくよ。

大空 はい。

看護師に手を引かれて、大空が知輝の部屋から出て行く。

暗転

◇智花の部屋(2日後)

大空が智花の部屋にいる。

智花が知輝からの手紙を読んでいる。

智花 大空くん。あのお兄ちゃん、それ全部暗記して話したの？

大空 そうだよ。

智花 登場人物の名前、全部暗記してるんだ。

大空 絵も描いてくれたよ。ほら。

知輝が描いた登場人物のイメージ画を智花に手渡す。

智花 すごい…よく描けてる。

大空 お姉ちゃんが演じた明日香ってこの人だね。お姉ちゃんに似てるもの。

智花 …会ってみたいな。(ねっ)「私が会いたって言ってる」ってあのお兄ちゃんに伝えてくれない。

大空 いいよ。お兄ちゃん、喜ぶよ、きっと。

◆知輝の部屋

大空が知輝の部屋に現れる。

大空 というわけで。お姉ちゃん。お兄ちゃんに会いたって。

知輝 ぼ、僕に…

大空 よかったね。お兄ちゃん。

知輝 …僕、女の人と話すの苦手なんだ。

大空 でも、お兄ちゃん演劇やっているんでしょ。たくさんの人の前で演じるんでしょ。

知輝 劇とは違うよ。劇は準備してから舞台上上がるから。

大空 準備すればいいじゃないか。お兄ちゃん、ほら、これ、『モテモテ大作戦』。

『モテモテ大作戦』を手にする。

知輝 「第一印象が肝心。目があったら微笑みましょう。話を進めることが苦手なあなたは、彼女の好みを調べておきましょう」。彼女の好みか…、そう言われても…

大空 お兄ちゃん。お姉ちゃん、きつとハリー・ポッターが好きだよ。だって、ぬいぐるみにハリーって話しかけてたもん。

知輝 ハリー・ポッターか。それなら得意分野だ。

知輝が智花と会う時を空想する。

智花の部屋にいる自分を思い浮かべる。

知輝 はじめまして。七つ森中学2年の小林知輝です(そう言って、にこっと微笑む)。

智花 はじめまして、七つ森女学院中学2年の森山智花です。私たちが演じた『虹の彼方に』、観てくれたんですって。

知輝 はい、とっても感動しました。思い出すと今でも胸が苦しくなります。

智花 そう言ってもらえると嬉しいです。

知輝 あの…

智花 はい。

知輝 大空くんから、聞いたんですけど、このぬいぐるみの名前はハリーだとか。

智花 はい。

知輝 それは、ハリー・ポッターのハリーですか。

智花 はい。私大好きなんです。

知輝 僕もなんです。

知輝が空想をふくらませて宙を眺めている。

大空 どうしたの、お兄ちゃん。

知輝 (あっ)

大空 じゃ、お兄ちゃん、がんばってね。

知輝 大空くん。

大空 何？

知輝 一緒に行かない？

大空 僕が？！僕、邪魔になっちゃうよ。

知輝 自信がないんだ。話を進める。

大空 ハリー・ポッターがあるじゃないか。それに、お姉ちゃんの劇の話だって。お兄ちゃん、勇気だしなよ。

知輝 僕たち、この前『オズの魔法使い』って劇やったんだ。僕の役、何だったと思う。

大空 何だったの？

知輝 ライオン。

大空 強そうな役だね。
知輝 ところがそのライオン、勇気のない臆病ライオンなんだ。僕とそっくりだ。
大空 そのライオンは、勇気のあるライオンになったの。
知輝 最後はね。
大空 お兄ちゃんもなれるよ。
知輝 ……
大空 わかった、一緒に行ってあげる。
知輝 ありがと。

大空がドアの近くまで行く。

大空 お兄ちゃん。いくよ。
知輝 よし。

知輝と大空が部屋から出て行く。

◇智花の部屋

大空が智花の部屋に入ってくる。

大空 お姉ちゃん。知輝兄ちゃんが来たよ。
智花 中に入れて。
大空 知輝兄ちゃん、入っておいでよ。

知輝が部屋の中に。
知輝はとても緊張している。

知輝 (震える声で)はじめまして。七つ森中学2年の小林知輝です。
智花 森山智花です。

知輝は智花の目を見て微笑もうとする。
しかし、うまく微笑むことができない。

智花 どうしたの？
知輝 いえ…その…
智花 大丈夫？
知輝 (ハリーのところに行って)あの…大空くんから、聞いたんですけど、このぬいぐるみの

名前はハリーだとか。

智花 はい。

知輝 それは、ハリー・ポッターのハリーですか。

智花 いえ、『どろんこハリー』のハリーです。

知輝 えー。

大空 お姉ちゃん、僕それ知ってる。お風呂に入るのが嫌いな犬の話でしょ。

智花 知ってるんだ。

大空 ママが買ってくれたの、『どろんこハリー』の絵本。(あっ)お兄ちゃん、どうしたの。

知輝は棒立ちになって汗をかいている。

知輝 すみません。僕、話をするのが苦手で。あの…、失礼します。

大空 お兄ちゃん。

知輝が部屋を出て行こうとする。

智花 待って！

知輝が止まる。

知輝 …

智花 私が書いた劇のどこが好き？

知輝 …全部です。

智花 それなら劇を観ていなくても答えられる。(ねっ)どこが好き？

知輝は目をつむってしばらく考える、そして『サンタが町にやってくる』のメロディーをハミングで歌う。

大空 お兄ちゃん、大丈夫。

知輝はハミングを続ける。それに智花もハミングで加わる。
歌い終わった時、二人は笑い合う。

大空 どういうこと？

智花 『虹の彼方に』の中にあるの。みんながこの『サンタが町にやってくる』を歌うシーンが。

知輝 僕があの場合で猛烈に感動したのは、最初は全然まとまってない子どもたちがクリスマ

ス会に向けて、一人また一人心を通わせていったこと。それが、あのシーンでものすごいエネルギーになること。

大空 聞きたいな、そのお話。

知輝は智花を見る。

智花 私も聞きたい。

知輝 えー。だってこの話は、智花さんが…

智花 (ねっ)話してよ。

知輝 僕がですか？

智花 (うなずいて)自分が創った話を目の前で誰かにしてもらって、なんかわくわくしない。

知輝 しません。ドキドキします。

大空が拍手をする。

大空 知輝兄ちゃん。がんばって。

智花 がんばって。

知輝 はい。わかりました。がんばります。(大きく息を吸って)劇は葵が病院に入院するところから始まります。



葵、颯太、美月、かりん、龍之介が、智花の部屋に集まってくる。

智花の部屋は智花の部屋であると同時に『虹の彼方へ』の舞台となる。

看護師の小津さんが葵を彼らの前に連れてくる。

小津さん 今日から、この部屋に入ることになった近藤葵さんです。みんな、仲良くしてあげてね。

ここで智花は明日香となる。

明日香となった智花は、松葉杖なしで動くことができる。

明日香 霧島明日香です。わからないことがあったら何でも私に聞いてね。よろしく。

明日香は握手の手をさしのべるが、葵はその手を握ろうとしない。

明日香 …あと少しでクリスマスでしょ。私たち、クリスマス会やるんだけど、一緒にどう？

龍之介 みんなでサンタさんの歌を歌うんだよ。その歌を聞いてサンタさんがここに来るんだよ。

葵 サンタなんていねーよ。

龍之介 サンタさんいるよ。去年も来てくれたよ。プレゼントくれたよ。

葵 それをくれたのはサンタじゃねえ。

明日香 やめて。

龍之介 明日香姉ちゃん。サンタさんいないの。

明日香 いるよ。サンタさん。

葵 (ため息をついて) やってらんねーな。

葵が出ていく。小津さんが後を追う。

明日香 ねっ、クリスマス会の準備しよっ。サンタさんを気持ちよく迎えられるように。

◆◆◆

知輝 そんな中、颯太が葵の情報を仕入れてくるんだ。

颯太 ビッグニュース。ビッグニュース。

颯太の周りに明日香、かりん、美月そして龍之介が集まる。

颯太 龍之介とかくれんぼして遊んで、ベッドの下に隠れてた時、葵のお母さんと小津さんが話してるの、聞いちゃったんだ。葵、死のうとしたんだって。薬飲んで。小津さん、いつも葵のそばにいるじゃない。あれ、葵のこと見張ってるんだよ。

登場人物達は舞台から去る。

知輝 何日か後、小津さんの目を盗んで、葵が病院の屋上に行くんだ。そして、フェンスを登ろうとするんだ。

智花の部屋が病院の屋上となる。

フェンスに登ろうとする葵(フェンスはイメージで)。

その時、美月が現れて葵を押さえつける。

葵 何すんだよ。

必死に葵にしがみつく美月。

美月が首を振る。必死に首を振る。

葵 離せ、離せよ。あたしなんか生きていたってしかたないんだよ。

葵が美月を突き飛ばす。

倒れ込む美月。

知輝 そこに、看護師の小津さんが現れるんだ。あのシーン。やられたって思った。

智花 やられた？

知輝 僕が予想したのと全然違ったんだ。

智花 どんなシーンを考えたの？

知輝 (うん…)

知輝が自分が考えたシーンを思い出す。

小津さん 葵ちゃん…

葵が目を背ける。

小津さん 私の目を見て。私の言うことを聞いて。葵ちゃん。命をなんだと思ってるの。命はね、一つしかないの。この病院には、病気と闘ってる子がたくさんいるの。みんな、もっと生きたい、もっと生きたいって思ってるの。ここにいる美月ちゃんは、音のない世界で生きてる。神様はそんな美月ちゃんに病気まで与えた。でも美月ちゃんは、その病気と闘ってる。あなたは、音も聞こえる。病気だってない。でも、あなたは命を大切にしない。甘ったれるのもいい加減にきなさい。

知輝 でも、違った。

大空 どう違ったの。

知輝 (うん…)

知輝が劇を思い出す。

小津さん 葵ちゃん…

葵 …

小津さん (手話を交えてゆっくり話す) 美月ちゃんが助けてくれたの。

美月 (ゆっくりうなずく)

小津さんは葵を抱きしめる。

小津さん (涙) よかった。よかった。よかった。よかった。

そしてストップモーション。

知輝 道徳の教材によくあるんだ。あなたより大きな不幸を背負っている人がいる、でもその人はあなたよりがんばっている。だからあなたもがんばりなさい。

智花 嫌い？そういう話。

知輝 小学生の時は好きだった。でも、今は苦手。特に体調が悪くなってからは…

大空 で、葵さんはそれからどうなるの？

知輝 次の日、小津さんのところに行くんだ。

小津さんが歩き出す。

葵が小津さんを追いかける。

そして小津さんの背中に声をかける。

葵 お…小津さん。

小津さんが振り返る。

葵 あ…ありがとう…ございました…

小津さん (笑って) 何よ。(そう言って葵の頭を軽く叩く)

葵 あ…の…、お願いが、あるんですけど。

小津さん 何？

知輝 大空くん、葵はどんなお願いをしたと思う。

大空 (少し考えて) わかんない。

知輝 その時、葵がどんなお願いをしたかは次のシーンでわかるんだ。次のシーンは病室のベッドの上で、美月がクリスマス会の飾りを作っているところから始まる。

美月がベッドの上でクリスマス会の飾りを作っている。

そこに葵が現れ、後ろから美月に近づき、美月の肩に触れる。

美月が振り向く。

葵 「(手話で) ありがとう」

美月 …(びっくりして葵を見つめる)

葵 あれ、間違えちゃったかな。

そう言って葵は手に持っていた本を見る。

知輝 葵が持っていた本は『はじめての手話』。葵は小津さんをお願いして、この本を借りたんだ。

美月が葵の肩を揺する。

そして、手話で葵に何かを語る。

葵 (あつ)その手話、私わかるよ。(本を見て)えっと…(美月の動作をまねて)これが「わたし」で、これが「あなた」で、これが「好き」。(あー)私は、あなたが、好き。

葵は自分の言葉にびっくりして、美月を見る。

美月 「(手話で)私は、あなたが、好き」

葵 (微笑んで)「(手話で)私は、あなたが、好き」

二人が微笑み合う。

美月 これが、この病院ではじめて心と心が通じた瞬間だった。私は音のない世界で生きている。生まれてから一度も音というものを聞いたことがない私にとって、音がどんなものか想像がつかない。音が聞こえたらどんなにいいだろうと思う。でも、音がなくても心と心を通わせることができる。この時から葵は私の大切な友達となった。

美月と葵が舞台から去る。

知輝 一つ聞いていいですか。

智花 何？

知輝 何で、美月さんにしゃべらせたんですか。

智花 そうしないと、彼女、台詞なくなっちゃうじゃない。劇としてはない方がいいかなって思って悩んだんだけど、でも…

知輝 劇の完成度より、仲間を取った。

智花 かつこよく言えば…

知輝 そっか…それで…

智花 気に入ってもらえなかったみたいね、あのシーン。

知輝 いえ、そんなこと…

智花 バレバレ。

知輝 聞いてよかった。僕、もっともっと好きになりました。『虹の彼方に』。

大空 (ねっ)お兄ちゃん、続きを聞かせて。

知輝 (智花に) どうします。

智花 (笑って)お願いします。

知輝 (知輝が、劇を思い出す)クリスマスが目の前まで近づいてきた時、颯太が悲しい情報を仕入れてくる。

大空 そんな話ばかり仕入れてくる颯太って嫌な奴だね。

知輝 でも物語にはそんな子が必要なんだよ。

大空 僕も物語の登場人物だったら、けっこう嫌な奴だね。きっと。

智花 そうかも。かつてに人の部屋に隠れていたり。

大空 …

智花 でも、そう言う子も必要なんだって。物語には。(知輝に)そうなんですよ。

知輝 うん…

大空 聞かせて。続きを。

知輝 (うん)

颯太が現れる。

それに続いて明日香、葵、美月、かりんが現れる。

葵 颯太、話って何だよ。

颯太 龍之介の病気。治らないんだって。

みんな …

颯太 まだ治療法が見つかっていないんだって。昨日、龍之介のママが来てたんだ。龍之介のママがお医者さんにそのこと言われた後、小津さんにどうしたらいいか相談しているのを聞いちゃったんだ。

明日香 龍之介、その時颯太と一緒に…

颯太 いないよ。だから、龍之介はこのこと知らない。

明日香 小津さん、龍之介のママに何か言った…

颯太 「信じましょ」って。

明日香 信じる。信じるって、何を？

颯太 治療薬が生まれること。

明日香 治療薬…信じる…

颯太 どうしたんだ？

明日香 サンタだ。治療薬はサンタだ。信じれば、サンタが町にやってくる。信じれば、治療薬が龍之介にやってくる。ねっ、今年のクリスマス会の最後に歌う『サンタが町にやってくる』、龍之介のために歌おう。

知輝 みんなが明日香の意見に賛成して。『サンタが町にやってくる』の練習に熱が入る。今まで、歌なんて絶対に歌わなかった葵も、美月とのことがあってから、だんだんみんなと心を通わすようになって、歌を歌うようになるんだ。そして、いよいよクリスマスがやってきた。クリスマス会の最後は、明日香の創った劇の上演。その劇のタイトルは歌と同じ『サンタが町にやってくる』。サンタを信じる心を盗む悪い魔法使いとサンタの戦いの劇なんだ。サンタを演じるのは明日香、魔法使いを演じるのは小津さん。最後はサンタと子どもたちが力を合わせて魔法使いをやっつけるんだ(『虹の彼方に』の登場人物は、知輝が説明することをパントマイムで演じる)。そして、みんなが声を合わせて叫ぶ。

子どもたち・サンタ 信じればサンタが町にやってくる。信じればサンタが町にやってくる。信じればサンタが町にやってくる。

知輝 そして、みんなで歌うんだ。『サンタが町にやってくる』を。

みんなが『サンタが町にやってくる』を歌う。



♪さあ あなたからメリークリスマス 私からメリークリスマス
Santa Claus is coming to town
ねえ 聞こえてくるでしょ 鈴の音がすぐそこに
Santa Claus is coming to town
待ちきれないで おやすみした子に
きっとすばらしいプレゼントもって ♪

(倒れていた魔法使い役の小津さんも歌に加わって、歌は最高に盛り上がる。
歌の輪の中心には、龍之介がいる。)

♪さあ あなたからメリークリスマス 私からメリークリスマス
Santa Claus is coming to town
Santa Claus is coming to town ♪

歌い終わった後。気がつくと、かりんが松葉杖なしで立っている。

かりん 立ってる。私、一人で立ってる。
明日香 かりん。

みんなが、かりんの周りを囲んで拍手をする。

劇の登場人物が舞台から去る。

ここで明日香は智花に戻っていく。

大空　今の歌、さっきお兄ちゃんが口ずさんでいた歌だね。

知輝　みんなで歌ったあの熱い歌が、かりんが自分の足で立つエネルギーになったんだと思った。それで猛烈に感動したんだ。

智花が松葉杖を使って立ち上がる。

智花　私もがんばらなくちゃだめだよ。リハビリ。

知輝　智花さん。

智花　（大空と知輝に）これ、持ってくる。

2人が、松葉杖を持つ。

知輝　どうするんです。

智花　1、2の、3。

智花はそう言って手を離す。

一瞬立った後、床に崩れ落ちる。

知輝　智花さん。

大空　お姉ちゃん。

智花　（悲しそうな顔をして）だめか…

そこに大空のかくれんぼ仲間がやってくる。

大樹　大空くん、ここにいたのか。

美夏・拓也　ここにいたのか。

大樹　大空くん、かくれんぼやろう。

美夏・拓也　かくれんぼやろう。

大空　だめ、今いいところなんだ。

拓也　いいところって？

大空　お話をしてもらってる。知輝兄ちゃん、まだお話続くんですよ。

知輝　続くけど、大空くん、友達も大切にしないと。

大空　あつ、知輝兄ちゃん、僕が邪魔なんですよ。僕がいなければ智花姉ちゃんと二人っきり

になれるもんね。

知輝 大空くん。それは違うよ。

大空 わかった。じゃお邪魔虫は出ていきます。知輝兄ちゃん、がんばって。続きは後で聞かせてね。

そう言って大空は出ていく。

病室で、知輝と智花が二人っきりになる。

二人は何も話すことができない。

知輝 あの。僕、これで…

そう言って、知輝はドアに向かって歩いていく。

智花 知輝くん！

知輝は歩くのをやめて振り向く。

智花 明日、続きを話して。大空くんも聞きたがってるし。

知輝 (笑顔で)はい。

知輝が出ていく。

智花 ハリー。どうしたんだろう。この気持ち。私、わくわくしてた、自分の創った話に。なんでこんなにわくわくするのかな。内容、全部知ってるのに。

暗転

◇智花の部屋(3日後)

智花の部屋。智花がベッドの上に座っている。

大空が部屋に入ってくる。

大空 智花姉ちゃん。知輝兄ちゃんを連れてきたよ。

智花 ありがと。

大空 知輝兄ちゃん、入っておいでよ。

知輝が入ってくる。

智花 そこ、どうぞ。

そう言われて知輝は、椅子に座る。

大空 知輝兄ちゃん。続き。続き。

そう言って、拍手をする。

知輝 えっと、昨日はクリスマス会のところまで話したんだよね。

大空 そうだよ。

知輝 クリスマス会の後の物語は、颯太と龍之介が中心になって進んでいくんだ。(智花に)そうですね。

智花 (うなずく)

知輝 あー、その話をする前に、物語はクリスマスの前に戻るんだけど、虹の話をしたほうがいいかな。智花さん、話、クリスマスの前に戻っていいですか。

智花 どうぞ。

龍之介が登場する。

知輝 サンタのことをほんとに信じている龍之介が、サンタさんにお願いしたことってなんだと思う。

大空 何なの？

知輝 それじゃ、その話をするね。

知輝が宙を見つめる。

颯太が龍之介のところにやってくる。

颯太 龍之介。お前、サンタさんへのお願い何て書いたんだ。

龍之介 これ。

そう言って絵を渡す。

颯太 何だ、これ。

龍之介 虹の絵、でもうまく描けないの。

颯太 虹の…

龍之介 僕、虹見たことないの。だから絵本見てこれ描いたんだ。「サンタさん、虹を見

せてください」って。

颯太 「虹を見せてください」か…、それはちょっと難しいんじゃないか。サンタさんって、プレゼントを袋に入れてくるだろ、虹じゃ袋に入らないじゃないか。

龍之介 そっか。ねっ、颯太兄ちゃんは虹、見たことある。

颯太 (うん)あるよ。

龍之介 どうだった。きれいだった。

颯太 …きれいだった。

ストップモーション。

知輝 結局、龍之介は別の願いを書くんだ。それは六十四色のクレヨン。クリスマスの日、虹は見られなかったけど、六十四色のクレヨンの願いはかなった。

颯太と龍之介が動きだし、かくれんぼを始める。

知輝 数日後、龍之介とかくれんぼしていた颯太は、とんでもない秘密を聞いてしまうんだ。

大空 とんでもない秘密って、どんな秘密？

颯太がベッドの影に隠れる。

そこに小津さんと颯太の母親が現れ、話を始める。

母親は驚き、何度も何度も首を振る。

母親が悲嘆して病室を出て行く。

小津さんが、母親を追っていく。

颯太が、隠れていた場所から呆然と立ち上がる(ストップモーション)。

知輝 颯太が知るようになったのは、自分自身のことだった。

大空 自分自身の？

知輝 颯太は重い心臓の病気で、何もしなければ、あと半年の命だということ。助かるためには心臓移植をするしかないっていうこと。颯太、それを知っちゃうんだ。

大空 心臓移植って？

知輝 自分の心臓を他の人の心臓と交換するんだ。

大空 それじゃ相手の人が死んじゃうよ。

知輝 死んだ人の心臓を移植するんだ。だから、移植って簡単なことじゃないんだ。

大空 で、どうなるの。颯太は助かるの？

知輝 それじゃ『虹の彼方に』の最後の場面を話すよ。

大空 助かるといいな、颯太。

知輝 ある日、颯太は突然倒れるんだ。

颯太がベッドに倒れ込む。

病院の仲間がベッドの周りに集まってくる。

みんな 颯太！

知輝 それ以来、颯太はベッドで寝たきりになってしまうんだ。

颯太がベッドに寝ている。

龍之介 お兄ちゃん。どうしたの。お兄ちゃん。かくれんぼしよ(う)。また、かくれんぼし
ようよ。

明日香 龍ちゃん。今は、話しかけちゃだめ。

龍之介 どうして。

明日香 颯太兄ちゃんは今、闘ってるの、病気と闘ってるの。

龍之介 颯太兄ちゃん、がんばって、負けないで。

その声に颯太が目を開ける。

龍之介 颯太兄ちゃん。

颯太 龍之介。龍之介だろ。今、俺のこと呼んだの。

龍之介 うん。

颯太 ほんとのこと言うと、俺、虹見たことないんだ。でも、きっともうすぐ見られる。
この前読んだ本に、天国に行く時には、虹の橋を渡るって書いてあった。だから、天
国に行く時、虹が見られる。天国って、虹の彼方の大空のずっとずっと高いところ
にあるんだよ。俺、もしそこでサンタさんにあったら、お前に虹を見せてくれって頼む
から。

龍之介 兄ちゃん。頼まなくていい。そんなこと頼まなくていいから、行かないで、天
国に行かないで。

颯太 俺、みんなに…会えて…よかった。本当に…よ…かつ…た…

そして、颯太は目をつむる。

一人一人がそれぞれ大きな声で颯太の名前を呼ぶ。

大空 死んじゃったの。颯太、死んじゃったの。

知輝 (うなずく)

大空 そっか…

知輝 その日の夕方。突然、龍之介が叫ぶんだ。

龍之介 （空を指差して）あれ。あれ見て！

明日香 虹。

みんなが集まってくる。そして、龍之介が指差す先にある虹を見つめる。

葵 颯太、今、あの虹を渡っているのかな。

明日香 あの虹、颯太がサンタさんに頼んでくれたんだね。

かりん 龍之介くんへのプレゼント。

美月 （手話で）「ありがとう」

龍之介 颯太兄ちゃん。ありがとう。

みんなが虹を見つめる。

知輝 みんなが虹を見つめるところで、幕が降りるんだ。

知輝が思い浮かべた劇の登場人物が舞台から去る。

智花はベッドに。

大空 悲しい終わり方だね。でも、颯太はいいな。

知輝 （びっくりして）「いいな」って、颯太、死んじゃうんだよ。

大空 死んじゃうことはよくないよ。でも…

知輝 でも、どうしていいと思うの。

大空 だって死ぬ前にみんなにメッセージを伝えることができたじゃない。僕の友達死ぬ前に誰もそんなメッセージ、伝えてくれなかった。

知輝 大空くんの友達って？

大空 この病院で仲良しになった友達。一番の仲良しだった^{いさむ}勇くんは、突然死んじゃった。

僕、何度も何度も叫んだよ、「勇くん」「勇くん」って。けど、勇くん、目を覚ましてくれなかった。僕、今も思うんだ。もし、勇くんが、あのとき目を覚ましてくれたら、どんなことしゃべったかなって。僕のお嫁さんになるって言っていたチーちゃんは、最後、体中にいろんなものつけられて、苦しんでた。僕のこと見てたけど、口にもマスクみたいなものがつけられて、何もしゃべれなかった。そして、死んじゃった。チーちゃんがああなる前、僕、チーちゃんとけんかしちゃったんだ。だから仲直りしたかった。僕、チーちゃんに向かって何度も何度も叫んだよ、「ごめんよ」「ごめんよ」って。でも、チーちゃん、何も言ってくれなかった。仲直り、できなかった。

知輝 …

大空 颯太はどうしてしゃべれたの？何もつけてなかったの。

知輝 (智花を見る)

智花 劇だからね。

大空 劇だとつけなくていいの。

智花 …

大空 でも、つけてないからしゃべれたのか…

智花 …

大空 颯太、何ていう病気だったの。

知輝 劇の中では病気の名前、出てこなかったよね。

智花 子どもって自分の病気がなんだか知らないことって多いんじゃないかなって思っ
て。それと、病名を出すことになんか抵抗もあって。でも、私なりに調べて、病
気にかかっている登場人物は、誰がどんな病気にかかっているか全部決めたんだ。颯太の病気も。

大空 何て病気。

智花 ルキーニ・モート病。

大空 …

知輝 大空くん、どうしたの？

大空 それ、僕がかかっている病気だ。

智花 ！

大空 僕、聞いてちゃったんだ。颯太みたいにかくれんぼして隠れていたとき、ママとパパが話
してるの。

智花 …

大空 僕、きっと颯太みたいに死んじゃうんだね。

智花 …

大空 …

智花 大空くん。颯太は死なないよ。

大空 (えっ？)

智花 この物語には続きがあるんだ。

大空 でも知輝兄ちゃん、幕が降りるって言ったよ。幕が降りるって劇が終わるってことだし
よ。

智花 でも、そう思わせておいて、幕はもう一度上がったの。そうだよ。

知輝 …うん。

智花 颯太、天国に行く途中でサンタさんに会おうの。それで龍之介のために虹を見せあげて
って頼むの。サンタさんはその思いに感動して、颯太に命をプレゼントするの。颯太はみ
んなが虹を見ている後ろで、目を覚ますの。颯太はみんなに声をかける。「みんなどうし
たの」。みんなはびっくりして振り向く。そこには、颯太がベッドの上に座っていた。み
んなが笑う。颯太も笑う。その笑い声の中で劇は終わるの。

大空 嘘だ。

智花 嘘じゃない。

大空 この劇の題、『虹の彼方に』でしょ。虹の彼方って天国のことでしょ。

智花 虹の彼方は天国じゃないよ。

大空 それじゃ、どこ。

智花 …

大空 どこなの？

智花 大空くん。虹の彼方って、お家のことなの。入院してる私たちって、ずっと病院にいたいわけじゃないでしょ。私たちが帰りたい場所って、お家だよ。虹の更に向こうにある自分たちのお家だよ。虹の彼方は天国じゃない。病気が治った後帰る、自分のお家のことなの。

大空 嘘だ。嘘だ。嘘だ。お姉ちゃんの、嘘つき、嘘つき！

そう言って大空は智花の部屋を飛び出していく。

智花と知輝は、しばらく何も話さずにいる。

智花が静かに涙をこぼす。

智花 何やってるんだろ、私。バレバレじゃない。

知輝 …

智花が机の上に置いてある筒を手に取り、その中から賞状を取り出す。

智花 最優秀脚本賞。

智花は突然その賞状を破く。

知輝 (びっくりして) 智花さん。

智花は更に賞状を破いていく。

知輝 智花さん。

そう言って、知輝は智花の両手をつかんで破くのを止める。

知輝は自分が智花の両手をつかんでいることを認識し、手を離す。

知輝 ごめん。

智花 颯太のこと、死なせなければよかった。

知輝 死ぬことを書くことは悪いことじゃないよ。

智花 最優秀脚本賞なんて狙わなければよかった。

知輝 賞を狙うことも悪いことじゃない。賞を目指してみんなで劇を創ること、僕はすてきだと思う。

智花 でも、賞を狙ったから、最後に颯太を死なせたの。感動を取ろうと思って。

知輝 感動を取ろうと思うことは悪いことじゃないよ。あのシーンでたくさんの人が感動した。僕も感動した。命って素晴らしいと思った。

智花 でも、大空くんは…、颯太と同じ病気の大空くんは…

知輝 …

智花 私の作品、今病気と闘っている人を…感動させない、それどころか、苦しめる…

知輝 そんなこと…

智花 ないって言える？

知輝 …

智花が手に持っている破いた賞状をゴミ箱に捨てる。

智花 一人にして。

知輝 …

智花 私を一人にして。

知輝 …

智花 お願い…

知輝が智花の部屋を出る。

暗転